

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第54回定時総会の報告	68
○農業農村工学会代議員選挙結果	69
○2021年度名誉会員の推挙	69
○農業農村工学サマーセミナー2021参加者募集！ 9月3、4日開催	69
○農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業についての募集	70
○今年もやります！農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2021”応募締切 7月31日	71
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	72
○改定6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	72
○2022年度農業農村工学会賞候補の推薦(再) 締切 10月31日	73
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	74
○2022年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	74
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	75
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局	75
○第78回京都支部研究発表会の開催(第3報) 投稿原稿締切 8月31日	77
○第76回中国四国支部講演会ならびに第44回地方講習会の開催(第1報) 講演・参加申込開始 9月30日ごろ	77
農業農村工学会論文集 内容紹介	78
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	80
学会記事	81

第89巻第8号予定

展望：流域治水の今後の展望：塩屋俊一

小特集：記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割

報文：「令和2年7月豪雨」に見た国土強靱化に向けた今後の技術開発：川邊翔平ほか

報文：降雨特性を踏まえたため池の洪水調節効果の評価：吉迫 宏ほか

報文：圃場スケールでの田んぼダムによる豪雨時の雨水貯留機能：持永 亮ほか

報文：平成30年7月豪雨によるため池への土砂流入時の被災要因：正田大輔ほか

報文：農業用ダムの諸元に基づく事前放流の治水効果の定量化：相原星哉ほか

報文：田んぼダム流水型落水量調整板の流出抑制効果の評価：岩垣浩志ほか

報文：既設水田排水マス用の機能分離型落水量調整装置の開発：小泉慶雄ほか

技術リポート

北海道支部：国営農地再編整備事業「南長沼地区」の営農変化と事業効果：菅 彩音ほか

東北支部：先端技術を活用した省力化・効率化の取組み：中村英則ほか

関東支部：新技術を使った牛島排水機場の改修：大野哲也ほか

関東支部：鎖川頭首工における取水方式の検討：藤澤義人

京都支部：雨水の流出抑制機能を維持しつつため池を廃止する取組み：山口将宏

中国四国支部：静的破砕剤を用いた既設構造物取壊しの施工事例：都築重範ほか

九州沖縄支部：地盤沈下対策事業佐賀中部地区における河川横断工の事例：山本智美

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2021年8月 31日～9月2日	大会運営委員会	2021年度(第70回)農業農村工学会 大会講演会	ⓑ	Web形態	88巻12号 89巻1, 4, 6号
2021年9月 3～4日	農業農村工学サマーセミナー 2021実行委員会	農業農村工学サマーセミナー 2021	—	Web形態	89巻7号
2021年11月 21日	関東支部	第72回支部大会	—	宇都宮市	89巻5号
2021年11～ 12月(予定)	京都支部	第78回支部研究発表会	—	Web形態	89巻4, 6, 7号
2021年12月～ 2022年1月 (予定)	中国四国支部	第76回講演会・第44回地方講習会	—	Web形態	89巻7号

公益社団法人農業農村工学会第54回定時総会の報告

- 日時 2021年5月26日(水) 14:00～14:40
- 場所 農業土木会館2階A会議室
- 代議員現在数及び定足数 現在数106名 定足数53名
- 出席代議員数 89名(内、出席3名、書面により議決権を行使した代議員58名、委任状により議決権を代理行使した代議員28名)
- 定足数の確認等
総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。
- 出席役員
平松和昭会長、小泉 健専務理事、長坂貞郎監事
- 議長の選出
事務局提案の藤原信好代議員を全員一致で議長に選出した。
- 議事録署名人の選出
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、水見洋、松田祐吾の両代議員を全員一致で選出した。
- 議事

決議事項

- 議案-1 2020年度事業報告
専務理事から同議案について説明があり、事業計画に掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
- 議案-2 2020年度決算
専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会

計の説明及び監事監査の報告があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

- 議案-3 名誉会員の推挙
専務理事から同議案について、20名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
- 議案-4 役員報酬の改正
専務理事から同議案について、常勤役員の報酬総額(年額)の変更の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

報告事項

- 報告事項-1 2021年度事業計画
専務理事から2021事業計画について説明があった。
- 報告事項-2 2021年度予算
専務理事から2021年度予算について説明があった。
議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14時40分議事の終了を宣言した。
以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに署名捺印する。

2021年5月26日

公益社団法人農業農村工学会第54回定時総会
(議事録作成者)

議長 藤原 信好
署名人 水見 洋
署名人 松田 祐吾

農業農村工学会代議員選挙結果

公益社団法人農業農村工学会 会員各位
 公益社団法人農業農村工学会
 会長 平松 和昭

2021年5月28日に実施した代議員選挙の結果、公開資料の名簿のとおり代議員として選出されたので、代議員選挙規程第11条第3項の規定によりお知らせします。

記

公益社団法人農業農村工学会 代議員名簿
 (任期：2021年5月29日～2023年5月代議員選挙終了の日)

○所属支部：北海道支部

川端伸一郎, 柏木 淳一, 川口 清美, 石川 善成,
 山本 恵太, 高崎 悟, 大西 峰隆, 蒲原 直之,
 藤田 二, 秀島 好昭, 関藤 博臣

○所属支部：東北支部

佐々木長市, 樽屋 啓之, 金山 素平, 近藤 正,
 北辻 政文, 石川 雅也, 申 文浩, 齋藤 伸,
 中邨栄二郎, 竹谷 文孝, 小笠原康雄, 千葉 和彦,
 鈴木 満, 金須 豊洋, 山中 俊市, 阿部 浩樹,
 渋谷 博徳, 保科 秀隆, 草 大輔, 渡部 幸英

○所属支部：関東支部

安部 伸治, 川合 規史, 遠藤 知庸, 塩野 隆弘,
 進藤 惣治, 川島 秀樹, 井坂 誠博, 和氣 芳道,
 松井 秀夫, 林 淳一, 小野 勉, 渋谷 圭助,
 吉田 寿, 茂手木 知, 飯島 好文, 佐藤 欣久,

村瀬 勝洋, 水見 洋, 宮本 直彦, 渡辺 巧,
 松田 祐吾, 小島 信彦, 西脇 淳子, 斎藤 広隆,
 鈴木 純, 松岡 延浩, 中村 貴彦, 大澤 和敏,
 笹田 勝寛, 足立 泰久, 吉田修一郎

○所属支部：京都支部

坂田 寧代, 平松 研, 岩間 憲治, 中村 公人,
 櫻井 伸治, 井上 一哉, 酒井 俊典, 長野 峻介,
 松野 裕, 桑原 耕一, 古賀 徹, 松岡 伸一,
 江村 英樹, 宮田 義人, 川崎 智之, 本田 照男,
 若山 幸人, 下平 達也, 堀江 正征, 青木龍太郎,
 田村 匠, 塩屋 泰一, 松岡 浩司, 長谷川憲生,
 井賀 尚哉, 河合 久志, 田中 誠二, 河端 正一,
 大亦 昌史, 高居 和弘

○所属支部：中国四国支部

小林 範之, 工藤 亮治, 角道 弘文, 松本 伸介,
 武田 育郎, 由谷 倫也, 森田 智彦, 堀野 章,
 大賀 則男, 榎原 敏幸, 田島 紹伸, 太田 隆久,
 井川 一郎, 笠見 隆俊, 豊永 竜二

○所属支部：九州沖縄支部

小谷 匡, 鈴木 光明, 島 武男, 石松 健一,
 島内 利昭, 土井 幸寿, 渡邊 昌明, 黒垣 圭則,
 戸高 久吉, 玉泉 利幸, 長本 正, 原田 昌佳,
 近藤 文義, 中園 健文, 肥山 浩樹, 仲村渠 将,
 本口 晴年, 木原 泰信, 平山 周作

2021年度名誉会員の推挙

2021年5月26日に開催された第54回定時総会の推挙により、以下の皆様が新たに名誉会員となりました。

これにより名誉会員の現在数は、296名となりました。

・新規名誉会員 (敬称略)

大串 和紀, 岡 太郎, 小林 博史, 高瀬 恵次,

谷 茂, 千田 勝巳, 常松 哲, 中島 克己,
 長嶋 滋孔, 中條 康朗, 難波 貞敏, 野村 昌志,
 林田 光雄, 原田 幸治, 久田 吉治, 前山 啓二,
 松浦 元, 宮下 紀光, 村上 章, 村上 東穂

農業農村工学サマーセミナー 2021 参加者募集!

農業農村工学サマーセミナー実行委員会です。サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度の大会講演会は昨年度に引き続きオンラインによる開催となりました。ディスカッションや雑談, ゲームを通じて, 農業農村工学に関わる仲間と交流してみませんか?

他大学の学生や他機関の研究者と議論をしてみたい方, 同じ農業農村工学を学ぶ学生・研究者と交流したい方, まだ研究室に所属していないけれど農業農村工学について知識を深めたい

学部学生など, どんな方でも大歓迎です。たくさんの方の参加をお待ちしています。

※企画段階のため, 変更する可能性があります。

1. 主催

農業農村工学サマーセミナー 2021 実行委員会

2. 日時 2021年9月3日(金)夕方~4日(土)

3. 対象 学部学生, 大学院生, 若手研究者, 若手社会人

4. 参加費

無料 (オンライン開催のため, 通信費等はかかりません)

5. 企画内容 ディスカッション、雑談、ゲームなど
※企画段階のため変更する可能性があります。

6. 詳細・参加申込み

サマーセミナーの詳細や、参加申込みフォームは以下のホームページで公開しています。

参加申込み期間：8月中旬まで（詳しくはホームページで公開予定）

URL：<https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>

7. お問い合わせ

E-mail：n.n.summer.seminar@gmail.com

農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業についての募集

農業農村工学会では、2022年度支給開始〔2021年度修士課程2年〕学生および2023年度支給開始〔2021年度修士課程1年〕学生を対象に、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って、ふるってご応募ください。応募締切りは、2022年度支給開始〔2021年度修士課程2年〕学生が、2021年9月30日（木）17:00まで、また、2023年度支給開始〔2021年度修士課程1年〕学生が、2022年2月28日（月）17:00までです。

募集要領

1. 趣旨

農業農村工学会（以下、「学会」という）は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する。」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な課題として、土地改良長期計画（2021年3月23日閣議決定）があります。それを技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」（2021年秋ごろ決定）があり、そこに示される「あるべき農業・農村の姿」に資する重要課題に取り組むことが喫緊の課題となっています。

その一方、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若い研究者が不足し、人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため、博士課程（後期）に進学し、研究に取り組もうとしている学生の研究課題を支援するため、学会では、（一財）日本水土総合研究所（以下、「水土総研」という）（<http://www.jiid.or.jp/>）の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」（以下、「支援事業」という）を創設し、博士課程（後期）学生への研究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指します。

2. 対象者、募集人員および取り組む研究課題

【2022年度対象者】

2021年度現在、修士課程2年、博士課程前期2年の学生で博士課程（後期）に進学する者を対象とし、学会の学生会員であることを要件とします。

【2023年度対象者】

2021年度現在、修士課程1年、博士課程前期1年の学生で博士課程（後期）に進学する者を対象とし、学会の学生会員であることを要件とします。

なお、募集時点で学会非会員の学生については、採用後に学生会員に入会することを要件とします。

募集する研究課題数は、支給開始年度ごとに5課題以内です。

なお、現在博士課程（後期）に在籍している学生や社会人の博士課程（後期）学生は、すでに研究課題を決めて取り組んでおり、この事業の目的である研究課題と一体化することが困難と考え、支援事業の対象者としません。また、日本学術振興会の特別研究員制度の採用者も対象としません。ただし、日本学術振興会の特別研究員制度との併願は可能ですが、重複受給はできません。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、2021年3月23日に閣議決定された「土地改良長期計画」（<https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/totikai/attach/pdf/index-13.pdf>）を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」（https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/seibibukai/gijutu_syoinkai/r30203/attach/pdf/siryu-17.pdf）に資する研究課題とします。

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が、今後別途構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です（<http://www.jsidre.or.jp/>）。

4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1人・1研究課題当たり年間100万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士課程（後期）の3年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止します。また、留年した場合で

も支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込みます。

6. 選考方法

(1) 書類審査

申請に必要な書類は次の3種類です。

- ①進学しようとする博士課程（後期）、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書
- ②指導教員（応募時点）の推薦書
- ③これまでの業績リスト

(2) 面接審査

上記（1）書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式（A4、2ページ、最終年度は、4ページ）に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また、水土総研におけるアソシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、「大学生の農業農村体験研修会」における必要に応じての参加、協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の選考時期

【2022年度対象者】対象は2021年度修士課程2年生となります。

募集期間 2021年8月1日（日）9：00～9月30日（木）
17：00（厳守）

面接 2021年12月上旬

内定 2021年12月末まで

【2023年度対象者】対象は2021年度修士課程1年生となります。

募集期間 2022年1月1日（土）9：00～2月28日（月）
17：00（厳守）

面接 2022年4月

内定 2022年5月上旬

9. 博士課程（後期）修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法および提出先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/career-path/>）より、申請様式1～3（Wordファイル）をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mailの添付ファイル（各様式のWordファイルおよび様式1、2〔署名入りの該当ページ〕のPDF）にて「8. 研究課題の選考時期」に示す募集期間内までに下記提出先に提出してください（郵送は受付しません）。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをお願いします。パスワードは、別途、メールにてお知らせください。

※申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のみに利用します。

提出先：農業農村工学会博士人材支援事業担当あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

11. 問合せ先

（公社）農業農村工学会

事務局長 中 達雄

調査研究部 中村充朗

TEL：03-3436-3418

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2021”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2021年7月31日（土）17：00

2. 動画の制限時間 60秒以内

3. 2021年度のテーマ 「〇〇からみた農業農村」

※〇〇は投稿者が自由に単語を入れてください。

4. 応募資格 どなたでも応募できます。

5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。

6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、

最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。

7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円

優秀賞（2作品）各1万円

8. アップロード方法

① 動画を作成する。

② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。

③ タグに3つのワード（jsidre2021、こりゃ映像、（農業農村）を入れる。

④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。

⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（new-suido@jsidre.or.jp）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube 動画の URL）

9. 参考資料

- ・ YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・ スマホから YouTube に動画をアップロードするには—Android 入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像 2020 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：豊かな実りを育む水～水の守り人～

野洲川土地改良区 鍋家可捺

<https://youtu.be/KfTdAu6SY68>

優秀賞：コロナ禍最前線で働くみなさまへ～ハートの形をしたため池より愛をこめて

兵庫県篠山土地改良事務所 朝比奈潤二

<https://www.youtube.com/watch?v=NMdzSflqKQI>

優秀賞：土地改良事業を契機とした新たな地域営農の展開 in 富山県三ヶ地区

富山県農村整備課 江藏 拓

<https://www.youtube.com/watch?v=EoxnHW4F1Vc>

優秀賞：農業用水路の安全対策～用水路事故のない地域づくりを目指して～

富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治

<https://youtu.be/716Z-c651Ts>

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2021年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・ 気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・ 頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発
- ③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・ 上記①、②以外、たとえば ICT など新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・ 青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・ 世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ その他（学会に一任）

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、2021 年 1 月以降、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/>) での閲覧サービスを順次開

始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。

(2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記E-mailにてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

(3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパス

ワードを返信メールにてご連絡申し上げます。

(4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

2022 年度農業農村工学会賞候補の推薦（再）

2022 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、2021 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

2022 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞		優秀賞					
	研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞		
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績					
賞の対象期間	2016 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 年以内に発表されたものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2018 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表されたものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2018 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表されたものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2020 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。	2020 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。	2019 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。	2016 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。	
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。		原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。		
受賞候補者	個人			個人または組織、団体				
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。				
賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広げ世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2011 年 10 月から 2021 年 9 月までに発表されたものとする。	2016 年 10 月から 2021 年 9 月までにを行った活動とする。	2019 年 10 月から 2021 年 9 月までにを行った活動とする。	2016 年 10 月から 2021 年 9 月までにを行った活動とする。	2016 年 10 月から 2021 年 9 月までにを行ったものとする。	2016 年 10 月から 2021 年 9 月までにを行ったものとする。	2019 年 10 月から 2021 年 9 月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。							2021 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体		個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。
選考の方法	学会選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2022 年度（第 71 回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2021 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会							

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 7 号掲載の問題は 8 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2022 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2022 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 90 巻（2022 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。

四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 2021 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 90 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2022 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用权・出版権

採用作品の使用权および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/format/>) より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、

氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 89, 90 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第89巻第 8号 記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割 (仮)	終了
9号 土地改良区に期待される役割、その支援策と先進的な取り組み事例 (仮)	終了
10号 農業農村工学におけるデジタルトランスフォーメーション (仮)	終了
11号 政策のグリーン化に向けた農業農村整備の新たな展開 (仮)	終了
12号 新たな土地改良長期計画と新たな農業農村工学の役割と技術 (仮)	終了
第90巻第 1号 大学改革を踏まえた農業農村工学分野に関する今後の大学の展開方向 (仮)	公募なし
2号 ——	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文 (テンプレート) の各ファイル (Word) を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」

を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者

のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター(IF)は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・Editors 11カ国から20名

・Editorial Advisors 29名

・Chief Managing Editor

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural

Systems Engineering, Seoul National University, Korea

・Managing Editors

Dr. Chinhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Masayuki FUJIHARA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

・Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural

Systems Engineering, Seoul National University

1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA

TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回(オンラインジャーナル)

購読料：正会員・名誉会員 9,900円(税込)

学生会員(院生含む) 4,950円(税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第 78 回京都支部研究発表会の開催（第 3 報）

1. 研究発表会

- (1) 日時 2021 年 11 月上旬から 1 カ月程度
- (2) オンラインにて開催します（オンデマンド方式）。
- (3) 講演要旨集を発行します。

開催時期や方法の詳細が決定次第、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）にてお知らせいたします。支部研究発表会のプログラムは確定次第支部ホームページに掲載予定です（9 月中旬を予定）。

※情報交換会・現地研修会は開催いたしません。

2. 参加申込み

(1) 参加申込み

京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）からダウンロードしたエクセルファイル「参加申込書（複数一括申込）.xlsx」に必要事項をご記入いただき、メールにて大学事務局（atada@kobe-u.ac.jp）に 11 月の研究発表会開催日までにお送りください。事務手続き上、できるだけ早期（9 月末目処）に参加申込みいただけますと幸いです。

(2) 申込期限 2021 年 11 月研究発表会開催日

- (3) 参加費 研究発表会（正会員） 3,000 円
研究発表会（学生会員） 無料
研究発表会（非会員） 4,000 円

(4) 参加費の納入

参加申込みフォームでの申込み後、参加費の支払い方法を事務局よりメールにてご連絡しますので、その指示に従ってお支払いください。なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。参加費の納入後、事務局から講演要

旨集と Web サイトの URL、パスワードを発送いたします。

(5) 招待者、支部賞受賞者、支部役員について

招待者、支部賞受賞者、支部役員には、事務局から講演要旨集と Web サイトの URL、パスワードを事前に発送しますので、参加申込みフォームの記入および参加費の振込は不要です。

3. 備考

本会告には、2021 年 6 月末時点における京都支部研究発表会の開催予定を掲載しておりますが、新型コロナウイルス対策の都合上、予定が大きく変更される場合は、農業農村工学会ホームページなどで改めてお知らせいたします。

4. 事務局

(1) 開催地事務局（参加費支払い、講演要旨集発送）

富山県農林水産部農村整備課内

第 78 回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 桶谷祐二

TEL：076-444-9640 FAX：076-444-3437

E-mail：yuji.oketani@pref.toyama.lg.jp

担当 池田 勉

TEL：076-444-3299 FAX：076-444-4413

E-mail：tsutomu.ikedai@pref.toyama.lg.jp

(2) 京都支部事務局（Web 開催、講演要旨集原稿、参加申込み）

〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学大学院農学研究科 多田明夫

E-mail：atada@kobe-u.ac.jp

TEL&FAX：078-803-5897

第 76 回中国四国支部講演会ならびに第 44 回地方講習会の開催（第 1 報）

中国・四国支部講演会および地方講習会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から Web 上でのオンデマンド方式での開催を予定しています。

1. 開催日時

2021 年 12 月上旬から 1 カ月程度の期間、専用ホームページに掲載予定です。

支部講演会の演題および地方講習会のテーマについては調整中です。

2. 申込み方法

(1) 講演申込み

申込開始日：2021 年 9 月末ごろ（予定）

(2) 参加申込み

申込開始日：2021 年 9 月末ごろ（予定）

3. 問合せ先

開催地事務局

岡山県農林水産事業部耕地課 永井、松村

〒 700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6

TEL：086-226-7434 FAX：086-222-9621

E-mail：NN.chugoku.shikoku@gmail.com

4. 詳細

支部講演会・地方講習会の詳細については、本誌掲載予定の第 2 報、中国四国支部のホームページ（<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>）等で案内いたします。講演会での発表を希望される方はホームページに掲載される情報にご留意ください。